

## P1-011

### 在宅で医療的ケアが必要な子どもを育てる母親の育児ストレスの特徴 -母親の語りから-

宮崎 つた子、木村 めぐみ

三重県立看護大学看護学部 看護学科

#### 【目的】

近年、医療的ケアを継続しながら在宅で生活する子どもたち（以下、医療的ケア児）が増加している。児を育てる母親は、24時間365日途切れることのない医療的ケアと養育の在宅生活で複雑な思いやストレスを抱えている。本研究では、在宅で医療的ケア児を育てる母親はどのような育児ストレスを抱えているかを明らかにした。

#### 【方法】

対象は、協力の得られた A 県内の総合病院に外来通院している、在宅で医療的ケア児を育てる母親とした。2017年5月～2018年2月に、インタビューガイドを用いた半構成的面接を行った。インタビュー内容から逐語録を作成し、母親の育児ストレスを表している部分を抽出し質的記述的方法で分析を行った。倫理的配慮は、研究内容を紙面と口頭で説明し同意を得た。なお、本研究は協力病院の倫理審査会の承認を得て実施した。

#### 【結果】

対象者は7名で、年齢は35.6(±4.7)歳、就労あり1名、就労なし6名であった。児の年齢は5.1(±2.6)歳で、男児2名、女児5名であった。児の状態は、運動機能では寝たきり4名、支えがあれば座位保持2名、はいはい1名であった。分析の結果、母親の育児ストレスは118コードから71サブカテゴリー、32カテゴリーが得られた。母親の負担に関するストレス、社会資源に関するストレス、医療的ケアが必要な子どもに関するストレス、家族に関するストレスの4つに分類すると、母親の負担に関するストレスは【子どもの世話のために制限された生活】等、社会資源に関するストレスは【福祉サービスの場の不足】等で構成されていた。医療的ケアが必要な子どもに関するストレスは【医療的ケアの継続の負担】等、家族に関するストレスは【夫が協力せず自分に任せきりなことへの不満】等で構成されていた。

#### 【考察】

母親は、日々の医療的ケアや児の養育のために制限された生活となっていたことに加え、代替者がいないことで自分の気分転換や休息時間の確保が困難となりストレスを抱えていた。安心して使える医療・福祉サービスの不足の状況の中で、身体的負担や疲労の蓄積を感じながら自分でなんとか対応している現状が窺えた。また、福祉サービスや教育関係の情報入手の困難さなど、必要な情報が届いていないことも明らかとなった。今後は、いつでも気軽に相談できる医療・福祉・教育等の窓口や、同じ母親達の情報共有、交流の場を地域の中で支援していくことが求められていた。